

TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月20日
我孫子市小中一貫教育だより
第320号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさと・Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「岡田武松」

12月13日に高野山小学校の6年生が Abi-ふるさと「岡田武松」の学習を行いました。

導入では、天気予報図を見て気づいたことを話し合いました。そこから気象学分野で活躍した我孫子市の先人、岡田武松について学習していくことを確認しました。

岡田武松がどうして「気象学の父」と呼ばれるようになったのか、またどうして「人を育てる名人」と呼ばれたのかを補助教材「ふるさと我孫子の先人たち」を活用して調べていきました。岡田武松が「台風」の名付け親であること、日露戦争を勝利に導く功績があったことを知ると、子どもたちから驚きの声が上がりました。また、養成所の生徒に紳士としての躰をしたり、機械が壊れても自分で修理できるよう実習したりして人を熱心に育てる姿には心を打たれ、グループの友達と岡田武松の業績について感心したところを伝え合いました。

次に、岡田武松が我孫子市に残した財産について学習しました。「気象送信所（気象台記念公園）」や「岡田武松邸（近隣センターふさの風）」の他、「人々との思い出」や「子どもの教育」など、たくさんものものを残してくれたことがわかりました。岡田武松の生き方から「人を大切にすること」を学ぶことができました。



Abi-キャリア「職業人講話」

12月12日に並木小学校の6年生が Abi-キャリアの一環として「未来を担うわたしたち」と題した職業人講話を実施しました。

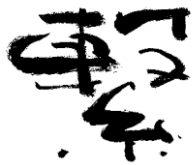
講師は、地域学校協働活動として推進員がコーディネートした様々な職業に就いて活躍している地域に縁の深い9名の方が担当しました。9名の講師がそれぞれのブースで自作の映像資料等を活用して質疑応答を含めて30分ずつ3回に分けて話をし、子どもたちは各自の希望をもとに編成されたグループごとに3カ所を回って学習するという方法で進めます。

講師の方たちは説明用の映像資料を活用したり、仕事に使用している貴重な機材を子どもに扱わせたり、箏を演奏して聞かせたりと、工夫を凝らして子どもたちを惹きつけながら、それぞれの仕事の内容や仕事に就いたきっかけ、やりがい、大切なこと、そして子どもたちの将来に向けての願いや期待などを話して聞かせました。どのブースも講師と子どもたちとの距離が近く、質疑応答の時間には、たくさん子どもたちが目を輝かせて講師に質問をしていました。

すべての講話が終了後に全体で集合し、講師の方たちから一言ずつ授業の感想と子どもたちへのメッセージが話されました。子どもたちの学ぶ姿への称賛や将来に向けての意欲を喚起される話があり、子どもたちは真剣な表情で傾聴すると同時に、盛大な感謝の拍手を送りました。

この授業と同じ取り組みが11月には根戸小学校で実施されています。この後、久寺家中学校区の両小学校での充実したキャリア学習をベースとして、中学校で実施する職場体験等がさらに質の高い、小中を一貫させたカリキュラムのもとで実施されることを期待しています。また、この授業のように「大人でも学びたい」と思わせるような取り組みを通し、学校運営協議会委員はもちろん、保護者や地域の方も参加しながら多くの方が学べる仕組みを構築し、さらなる「地域とともにある学校」の推進に尽力されることを望んでいます。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和5年12月20日
我孫子市小中一貫教育だより
第321号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「職業人講話」

12月13日に白山中学校の1年生がキャリア学習の一環として、「職業人講話」の学習を行いました。地域新聞社が発行している「10年先のジョブノート」を活用して職業について学び、各班で企業について紹介する事前学習を行いました。今回は実際に働いている企業の方から話を聞きます。授業が始まると生徒からは緊張した様子が伝わってきました。

今回は製造業や物流業、医療、飲食サービスなどを含めた12企業から事前に選んだ2つの企業の方のお話を、45分ずつ聞きました。1日の仕事の流れを丁寧にお話してくれるだけでなく、実際に使われている製品に触れ、何に使われているものなのか考えたり、包帯を実際に巻く体験をしたり、その職業に就くための必要な資格や仕事上のトラブルなど現場の人の話を聞いたり、どの企業も工夫ある職業紹介をしてくださり、生徒たちは興味津々で集中して話を聞いていました。質問タイムでは事前学習を通して出てきた質問を企業の方たちに積極的に聞きました。「仕事のやりがいはどういうところですか？」、「仕事で一番大変だったことはなんですか？」、「これからの目標や企業努力は？」など多数の質問が出ました。企業の方が答えてくださった内容を一生懸命にメモする姿からも今回の職業人講話が生徒にとって有意義なものになっていることが感じられました。

今回の職業人講話は新しい職業観を見出したり、自分の目標や夢を再確認したりすることができる時間となりました。



Abi-キャリア「TWICE PLAN」

12月14日に湖北台中学校の1年生がキャリア学習の一環として、地元企業インターンワーク「TWICE PLAN」の授業を行いました。地元企業が提案するミッションについて、生徒たちが自分たちで必要なことを調べ、単元の最後には自分たちで構想した企画をプレゼンテーションで発表します。

本時は、6時間構成の3時間目の授業として、企業から提案されたミッションへの回答を明確にし、リサーチを始めることが目標でした。「千葉県を味わえる新しい修学旅行」や「家族の絆がつながる元気な食卓を応援する定期メニュー」「あたたかい地域社会を作る地域新聞の新サービス」などからグループで一つ選んで企画提案します。

修学旅行プランの提案では、「神社や寺院などのパワースポット巡り」や「大自然で息抜きプラン」、食品定期メニューの提案では、「みんなでいつでも食べられるアレンジレシピの家庭料理」などを考えていました。自分たちの考えに説得力を持たせるために、企業の製品やサービス提供への理念、提案商品のPR方法、消費者のニーズ把握のためのアンケート調査などが重要であることに気づき、グループで分担して調べ始めていました。生徒たちは、一つの企画を提案するだけで、事前にたくさん取り組まなければならない大変さに気づきながらも、意欲的に調べたことやわかったことを仲間と共有しながら、次のアイデアを構築していました。最後の授業で、どんな発表がされるのか楽しみにしていました。

働くことや企業の取り組みについての理解が深まると、さらに2年生でのハローワーク式の職場体験学習への深まりが期待されることでしょう。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年1月22日

我孫子市小中一貫教育だより

第322号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさとの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「杉村楚人冠」

12月19日に湖北中学校の3年生が、Abi-ふるさとの学習として地域の偉人である「杉村楚人冠」について社会科と関連させた学習をしました。導入として、これまで学習した我孫子の先人をふり返ったのち、本時の人物である杉村楚人冠が、新聞業界で功績を残した先人であることを知りました。生徒たちはアサヒグラフの表紙や記事を見て、「カラーで見やすい」、「新聞より気軽に読めそう」などの意見を出し、楚人冠の想像を膨らませました。



学習の前半は補助教材「ふるさと我孫子の先人たち」をもとに、どんなことをした人物か調べました。「ユーモアのある記事を書いた」「当時の最先端の新聞をつくった」「天声人語のもとになったコラムを始めた」など、新聞業界で新しい取組をした人物であること、また「我孫子ゴルフ倶楽部の創設に関わったこと」などが分かり、楚人冠の功績に興味を持ちました。

学習の後半では、楚人冠のようにユーモア溢れ、多くの人の目を引く「記事づくり」に取り組みました。湖北No.1のジャーナリスを目指して、「広報あびこ」に掲載された新しい市議会議員を報じる記事に、自分たちで考えて見出しを見つけました。どうしたら読んでもらえるか、インパクトのある見出しはどんな言葉を使えばよいかを生徒たちは熟考していました。様々な見出しが発表され、「新しい市議に我孫子市を託す」や、「我孫子の未来を決める24人」など、社会科公民的分野の地方自治で学習した内容と関連づけて考える生徒たちがたくさんいました。生徒たちによる投票の結果、もっと政治が身近なものになってほしいという願いを込めた「あなたの推し、活躍します」の見出しをつけた生徒がNo.1ジャーナリストに選ばれました。

我孫子の先人についての功績を知ることにとどまらず、学習したことと関連付けて考えを深める授業はとても新鮮で、生徒たちも一層身近な地域への関心を高めることができました。

Abi-ふるさと「井上二郎」

1月18日に湖北台西小学校の4年生が、Abi-ふるさとの学習の一環として、社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」の学習をしました。

導入では、洪水被害の写真から気づいたことを話し合い、そこから我孫子市は洪水被害が多かったことを学びました。そして、昔の手賀沼と今の手賀沼の図から気づいたことをワークシートに書き、グループの友達と共有しました。「昔は大きかったのに、小さくなっている」「ザリガニの形からヘビの形になっている」などのたくさんの気づきから、手賀沼が干拓されたことがわかりました。



次に、なぜ手賀沼は干拓する必要があったのかを調べました。年表から洪水が頻繁にあったことがわかり、そこから洪水による被害についてグループの友達と考えました。「家に住めなくなる」「道路が使えなくなる」など、生活することが難しくなることがわかりました。

そして、手賀沼の干拓をすすめた人物が我孫子の先人「井上二郎」であることを学びます。補助教材「ふるさと我孫子の先人たち」を活用しながら、二郎がどんな思いをもって干拓に当たったのかを考えました。「水害を減らしたい」「安心して生活できるようにしたい」とグループの友達と話し合いながら二郎の気持ちを考えました。

授業の最後は、学習して感じたことや、我孫子市に対する思いをワークシートにまとめました。今の手賀沼に水害が無いのは、先人の努力によるものだとわかる授業でした。



TSUNAGU

令和6年1月26日
我孫子市小中一貫教育だより
第323号

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「ようこそ新しい1年生」

1月17日に高野山小学校の第1学年で、Abi-キャリアの一環として、生活科「ようこそ新しい1年生」の学習を行いました。

「ようこそ新しい1年生」の学習では、これまでの学習で、「自分ができるようになったこと」「園児にどのようなことを教えてあげたいか」などを考えて話し合ってきました。本時では、「こま」「折り紙」「紙鉄砲」の3つのグループに1年生が分かれ、天王台双葉保育園と東あびこ聖華保育園の年長児にそれぞれの遊び方を教える交流会を行いました。10分の交流を3回実施し、園児はローテーションで各グループを回り、全ての遊びを教えてもらいました。



1年生は「優しい言葉遣いで話そう」「一緒に遊ぼう」など、それぞれ目標をもって園児と交流を行いました。どのグループでも園児がうまくできたら、拍手をしたり、たくさん褒めたりすることができました。また、うまくできないときには、優しく丁寧に教えることができました。1年生も園児もみんなが笑顔で、楽しい交流会になりました。



1年生にとっては、年長児との交流を通して、優しい言葉遣いや返事などを心掛けるコミュニケーション力、最後までやり遂げる忍耐力、自分たちも2年生になるという進級への自覚などを育むことができました。

Abi-キャリア「いのち・こころ・からだ」

1月18日に、高野山小学校の第2学年で、生活科の「自分はっけん」の学習の一環として、Abi-キャリアの「いのち・こころ・からだの学習」を行いました。

「いのち・こころ・からだの学習」は、小学校の第1学年から第6学年まで、年に1回 Abi-キャリアに位置付けて学習を行っています。昨年度は、プライベートゾーンなど自分の体の大切さについて学びました。今回は、「いのちのたんじょう」について知り、自分たちの命の大切さについて学びます。

最初にお腹の中の赤ちゃんの心音を聞き、続いて命の始まりである卵子と精子の大きさについて学びました。卵子の実寸大の穴が開いた黒い画用紙が配られると、光に透かしてその穴の小ささにびっくりする子どもたち。続いて、命が宿って2か月の赤ちゃんの大きさが2cmとわかると、おのずと定規を取り出してその大きさを確認していました。やがてお母さんのお腹の中で成長し、出てくるときには50cmになる赤ちゃん、その頭の向きも出口に向かってお母さんと力を合わせて出産を迎えます。出産までの道のりは人それぞれ。先生が、お家の人から教えてもらった実際の出産のときの様々な様子を紹介すると、子どもたちには、嬉しそうな、ほっとしたような素敵な笑顔が広がっていきました。



学習の感想では、命の誕生についてわかったことのほか、命が誕生するすばらしさや、自分を生んでくれた両親への感謝の気持ちがたくさん書かれていました。自分の命の大切さを実感できた、素敵な学習でした。



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年1月26日

我孫子市小中一貫教育だより
第324号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「職業人講和会」

1月23日に我孫子第四小学校の第6学年で、Abi-キャリア教育の一環として「職業人講和会」が行われました。講師は、地域学校協働活動として推進員がコーディネートした様々な職業に就いて活躍している地域に縁の深い8名の方が担当しました。

子どもたちは、各自の希望をもとに3つの職業について20分ずつ仕事の内容や、やりがい、苦労、大切にしていることなどをスライドや映像を交えて聞きました。広告代理店、洋服リフォーム、工務店、医療事務、生命保険会社、研究者、野球の球団職員など、講師を務めた方々の職業は多岐にわたります。子どもたちは真剣な眼差しで話を聞き、時折「すごい！」や「どうして？」という声が自然と出たり、熱心にメモをとったりする姿が印象的で、大変興味を持って話を聞いていました。

工務店の方の話では、家をつくるために大工や設計士だけではなく、営業や経理など様々な職業が関わっていることが分ったり、プロ野球選手から球団職員になった方では、チームを支えるために多くの方がプロ意識をもって取り組んでいることが分ったりし、子どもたちのこれまでの職業観をさらに広げることにつながっていました。

ふりかえりでは、どの講師の方も、「喜んでもらうために働く」、「今の自分を大切にしてほしい」と子どもたちに語っており、残りわずかの小学校生活を大切に、4月から始まる中学校での活動でも、将来のイメージを描きながら取り組んでいこうと意欲を高めることができました。中学校での職場体験等、一層充実したキャリア教育へとつなげていくことを期待します。



Abi-キャリア「いのち・ところ・からだ」

1月25日に、湖北小学校の第2学年で、生活科の「自分はっけん」の学習の一環として、Abi-キャリアの「いのち・ところ・からだの学習」を行いました。昨年度は、プライベートゾーンなど自分の体の大切さについて学びました。今回は、「いのちのたんじょう」について知り、自分たちの命の大切さについて学びます。

最初に「音」を聞きました。「電車の音」「ヘリコプターの音」と予想する子もいましたが、答えが「お腹の中の赤ちゃんの心音」と聞いて大変驚いていました。続いて命の始まりである卵子と精子の大きさについて学びました。卵子の実寸大の大きさを黒い画用紙の穴で確認すると、その小ささにまた驚きました。そこからできた赤ちゃんがお腹の中で大きくなる過程でも、驚きの声がいっぱい上がりました。

次に、お腹の中に赤ちゃんがいるお母さんが、どんなことに気を付けているか話し合いました。「食べ物」「タバコやお酒はダメ」「ケガをしないようにする」など、お腹の赤ちゃんを守るために気を付けながら過ごしていることがわかりました。さらに、先生が、お家の人から教えてもらった実際の出産したときの様子を紹介しました。「無事に生まれてくるよう毎日祈っていました」や「1番の宝物ができました」など、お母さんが子どもを思う気持ちを聞いてクラスのみんなは笑顔でいっぱいでした。

学習の感想では、「力を合わせて産んでくれてありがとう」「大切に育ててくれたみんなに感謝します」「命を大切にします」などがあり、家族への感謝の気持ちと、自分の命の大切さを実感できる素敵な学習でした。





TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年2月9日

我孫子市小中一貫教育だより

第325号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎちゃん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「いのち・こころ・からだ」

1月18日に、高野山小学校の第3学年で、学級活動の「キャリア教育」の学習の一環として、Abi-キャリアの「いのち・こころ・からだの学習」を行いました。「いのち・こころ・からだの学習」は、小学校の第1学年から第6学年まで、年に1回 Abi-キャリアに位置付けて学習を行っています。今回は、「いのちのはじまりと赤ちゃんのたんじょう」について知り、体のつくりや働き、生命誕生までのしくみを学びます。



最初にいのちに関わる体の名称と働きについて学びました。児童は先生の丁寧な説明に聞き入り、2年生で学習した命のもとが体のどこにあるのかを学びました。その後、映像を通して精子が卵子に行きつくまでの過程を学びました。視聴後、先生が児童に「精子が卵子に行き着くまでに実際の間人だとのどのくらいの距離があると言っていた？」と尋ねると、「月までの距離！」とすぐに答えが返ってきました。「みんなは『よーいドン』でそこまで走れる？」と尋ねられると「走れない！」と答えており、改めて赤ちゃんのもとができることが難しいこと、自分たちの存在が奇跡であることを実感していました。次にお腹の中の赤ちゃんの成長についての映像を視聴しました。児童は映像に出てくる赤ちゃんが大きくなっていき、動く様子を見ました。最初は小さかった赤ちゃんのもとがだんだん大きくなり、人間の形になっていく過程に驚いている様子でした。最後の出産のシーンでは自然と「がんばれ！」と声をかける児童もあり、児童たちのいのちへの思いを感じました。

最後に授業で学んだことを書きました。「お父さんとお母さんがすごく頑張って生んでくれたことが分かったからもらった命を大切にしたい」など一人ひとりがかけがえのない存在であることを実感していました。自分のいのちの大切さを感じることができる温かい授業でした。

Abi-キャリア「いのち・こころ・からだ」

1月30日に湖北小学校の第1学年の生活科「じぶんはっけん」の学習の一環として「いのち・からだ・こころの学習」が行われました。この学習は、小学校の第1学年から第6学年まで、年に1回 Abi-キャリアに位置付けて行っています。



「頭って何するところ？」と、先生の問いかけで授業が始まり、「では、耳は？目は？」の質問に、子どもたちは次々と答えていきます。「今日は、いつも見えないところを学習するよ」と、学習問題「からだのひみつをはっけんしよう」が提示されました。

まずは、いつも服や下着で隠しているからだの部分について、正しい名前をみんなで確認し、人には見せないからだの部分をプライベートゾーンと呼ぶことを知りました。なぜ服で隠しているのか、先生から「男性は赤ちゃんのものと通り道」、「女性は赤ちゃんが生まれてくる通り道」だと、先生自身の出産の経験も織り交ぜ説明すると、子どもたちは、「いのちにかかわるところなんだ」と、大切に理由に納得していました。また、「どうしたら大切にできる？」の問いには「見せてと言われても人には見せない」や、「けがのないように気をつける」、「何か困ったらおうちの人に相談する」などの意見を、クラスの仲間と交換できました。

授業のふりかえりには、「自分も友達もからだも大切にしたい」、「いのちを大切にしたい気持ちもてた」などと綴り、からだについて考える子どもたちの表情はとても真剣で、すばらしい学習となりました。



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年2月9日

我孫子市小中一貫教育だより

第326号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうきやまさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「高齢者についての理解と共生」

1月29日に根戸小学校の6年生で、Abi-キャリアの一環として「高齢者についての理解と共生」をテーマにした学習が行われました。この学習は久寺家中学校区で取り組んでいる社会福祉協議会と連携した福祉教育であり、1時間目は高齢者の疑似体験、2時間目は認知症サポーター養成講座というメニューで展開されました。



高齢者疑似体験では、体育館に集まった児童が説明を受けた後、我孫子北地区社協のみなさんの支援を受け、①身体機能の低下による困難、②視覚機能の低下による困難、③感覚機能の低下による困難の3種類の体験をしました。

①では全身(胴体、腕、膝、足首)に4kgほどの装具をつけ、耳にはヘッドホン、そしてまっすぐに立てないようにベルトを巻き、必要に応じて杖を使いながら歩行します。子ども達からは、「大変」「腰が痛い」「重くて歩きにくい」「何も聞こえなくて怖い」等の声が聴かれました。②では白内障メガネをかけてホワイトボードに貼った交通標識、ハガキの裏に書かれた文字などを見ていきます。子ども達からは「見えにくい」「色や文字の大きさが全然違う」といった声が聞かれ、指導者から交通標識の色が高齢者に配慮されていることや「みんながお年寄りに手紙などを出すときにどうやって書いたら親切かな？」といった投げかけをして考えさせていました。③では軍手を二重にして財布からコインを出して戻す、箸で大豆をはさんでコップに入れる、新聞紙をめくるという動作を試し、子ども達からは「難しい」「やりづらい」という声が出ていました。一通りの体験を終えた子ども達に、社会福祉協議会の方から「今、体験したお年寄りの気持ちになって、今日の帰りからでも優しく手を差し伸べてあげてほしい」と話があり、子ども達は体験した学びを振り返り、大きくうなずいていました。

次に、認知症サポーター養成講座です。黒板には高齢者が抱える困難さが掲示され、高齢化社会について説明がありました。続いて、認知症の種類、どうして発症するのか、その結果どんなことが起こってしまうのかといった説明がありました。

その話を受け、今度は「認知症の人と接するとき、どうしたらいい？」という問いかけがあり、子ども達の代表と北地区社協の方が全体の前で一緒に簡単な寸劇を行いました。食事をしたことを忘れた祖父がしつこく催促し、孫たちがついには怒り出してしまおうという内容です。終わった後に指導者が「どう思った？」「みんなならどうする？」と問い、周囲と話し合って数人が発表しました。子ども達の意見を受け、よい対応例を寸劇で確認し、再度感想を話し合いました。指導者から「時には嘘をつくことがあるかもしれないけれど、お年寄りの意識を優しく変え、気持ちを落ち着かせることが大切だ」ということを学びました。

さらに、「認知症を進ませないためには？」について考えました。子ども達のつぶやきをとり上げながら「薬も大事だけど、それ以上に笑顔が大切。優しく声をかけてあげてうれしい気持ちにしてあげてほしい」とまとめの話がありました。



最後に学習の振り返りを書きました。2時間を通して学んだことと感想がしっかりと記入されており、「今後の生活に生かしていきたい」という決意の言葉も添えられていました。高齢者疑似体験と認知症サポーター養成講座を合わせて学習したことが相乗効果を生み、子ども達も理解しやすく、より有意義な時間となったことを強く感じました。



TSUNAGU

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室

令和6年2月19日

我孫子市小中一貫教育だより

第327号



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「いのち・こころ・からだ」

2月1日に我孫子第一小学校の第1学年の Abi-キャリアの一環で「いのち・こころ・からだの学習」が行われました。

まずモニターに映し出された男女のイラストを見て、男の子と女の子の違いについて考え、イラストの衣服を脱がせていくと、性器が違うことがわかり、学習問題「おたがいのからだについて知ろう」が提示されました。



いつも隠しているからだの部分について、養護の先生が説明し、正しい名前や人には見せないからだの部分をプライベートゾーンと呼ぶことを知りました。なぜ服で隠しているのか、先生から「男性は赤ちゃんのものと通る道」、「女性は赤ちゃんが生まれてくる通る道」だと、子どもたちは、「いのちにかかわるところなんだ」と、大切にする理由に納得していました。また、「どうしたら大切にできる？」の問いには「かくす」「人には見せない、さわらない」「自分から見せてと言わない」など、小グループで意見を共有できました。さらに養護の先生から「きれいにするために自分でやさしく洗えるようにしよう」と話があり、最後にふりかえりを書きました。授業のふりかえりには、「もっとからだのことを知りたくなった」、「みんなが大切なものを持っているから、お互いに大切にしたい」などと綴り、からだについて考える子どもたちの表情はとても真剣で、すばらしい授業でした。特に養護の先生と連携して、性についての学習することで、子どもたちの理解も深まっていました。

Abi-キャリア「もうすぐ2年生」

2月1日、我孫子第三小学校の第1学年で、Abi-キャリアの一環として生活科の単元「もうすぐ2年生」の授業が行われました。学習発表会で、成長したことやできるようになったことを保護者に向けて発表することが単元のゴールです。本時の課題は、もうすぐ2年生になることを踏まえ、新しい1年生に何ができるかを考えることでした。



まず、入学してからの思い出や学習したことについて、写真を見ながらふりかえりました。運動会や校外学習などさまざまな行事をふりかえることで、1年間の自分たちの成長も合わせて確認できました。さらに「1年前、どんな気持ちでいたか？」と先生から問いかけられると、「わくわくしていた」「どんな友達に会えるか楽しみだった」という意見に対して、「勉強が心配だった」や「友達ができるか不安だった」という意見もあり、1年前の自分の気持ちを思い出すことができました。

次に本時の課題である「新しい1年生に対して何ができるか」について、どの児童もワークシートにすらすらと書き出し、「昔遊びを教えてあげたい」「小学校は楽しいところだと伝えたい」「一緒に学校探検をして、三小のことを知ってほしい」など、素直に今の自分たちができそうなことを考えられました。さらに「やさしく、丁寧に相手の目を見て教える」など、自分たちが2年生にしてもらったことをもとに考える姿に、立派な2年生への一步を踏み出す意欲を感じました。

上級生から下級生へと思いを繋いでいくキャリア学習の授業を通して、児童の心の成長が今後も楽しみになりました。学習発表会では自信を持って成長を披露し、会は大成功だったことでしょう。



TSUNAGU

令和6年2月19日
我孫子市小中一貫教育だより
第328号

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなぎさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-ふるさと・Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-ふるさと「むかしあそび」

2月5日に布佐小学校の第1学年で、Abi-ふるさと学習の一環として生活科「むかしあそび」が行われました。この活動は、布佐中学校区CS実践活動企画でもあり、学校運営協議会が地域の有志スタッフを集めて実施されました。

最初に室内遊びをしました。遊びは「コマ回し」「紙飛行機」「あやとり」「お手玉」「おはじき」「けん玉」「ビー玉」です。児童はグループごとに各ブースへ移動し、遊びます。活動の始めは「よろしくお願いします」と気持ちの良い挨拶から始まり、遊び方を教わります。どの遊びも、昔遊びの先生方は簡単そうにしていますが、実際にやってみると難しいものばかりです。児童は積極的に挑戦してみるものの、なかなかうまくできません。しかし、友達同士で「こうやるとうまくできるんじゃないかな?」「力加減を変えてやってみよう」と相談しながら、何度も何度も粘り強く取り組みました。そして、上手にできたときは「やったー!」と大喜びし、友達も自分のことのように喜んで拍手を送っていました。



次に外遊びをしました。遊びは「まるオニ」と「じゃんけんグリコ」です。「まるオニ」はおにごっこなのですが、地面に○△□が描かれていて、その中は安全地帯でタッチされても捕まったことにはなりません。「じゃんけんグリコ」は階段を使ったじゃんけんで、勝った手の文字数だけ進める遊びです。どちらの遊びも児童は友達や地域の方と仲良く、体いっぱい動かして遊びました。降雪が心配される寒さでしたが、体がポカポカしていました。また、自分が知っている簡単な遊びであっても、ちょっとルールを加えることでより楽しい遊びになることを体感することができました。

地域の方から遊びを教わり、友達と仲良く遊ぶことで、学校で学ぶ楽しさをたくさん味わうことができる時間となりました。

Abi-キャリア「職業講話会」

2月6日に我孫子第一小学校の第5学年で、Abi-キャリアの一環として総合的な学習「職業講話会」が行われました。講師の先生は4名で、「研究所で分析をする仕事」「薬の研究開発をする仕事」「広告代理店の営業とクリエイティブの仕事」についてお話を聞きました。

職業人からは「プラスチック製品を販売するまでにどんな研究をしているのか」「苦い薬を甘く感じさせる方法」「広告ができるまで」など、それぞれの仕事内容に関する説明がありました。どのお話も、身の回りに当たり前にあるものが、職業人の努力によって作られていることがわかりました。



また、「自分の仕事でみんなの生活が豊かになる」や「自分の作ったものがテレビなどで扱われると嬉しい」など、働きがいについても聞くことができました。さらに、「子どもの時から実験が好きだった」や「人とお話しするのが大好きだった」「英語が得意だった」など、好きや得意を活かして仕事をしているとお話がありました。児童から「国語が苦手でも広告のお仕事ができますか?」といった質問にも、「得意なことを武器にすれば大丈夫だよ」と励ましの言葉をもらい、「働く」ということに対して前向きな気持ちになることができる時間となりました。



T S U N A G U

令和6年2月22日
我孫子市小中一貫教育だより
第329号

小から中への滑らかな接続にむけて

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

Abi-キャリアの授業実践の様子を紹介するうな～！

Abi-キャリア「いのち・こころ・からだ」

1月30日に湖北台東小学校の第1学年で、「いのち・こころ・からだ」の授業が行われました。本時では、体の部位や命につながる場所（プライベートゾーン）について学習します。また、男女の体の違いやプライベートゾーンを守る方法についても考えていきます。

学習の最初は、自分の体についているものについて、考えました。「目」「鼻」「耳」「口」「手」など、どんどん手を挙げて発表しました。その後、男女の体の違いについても考えます。そこで、「プライベートゾーン」等の言葉についても学習しました。最初は恥ずかしがっていた1年生も、プライベートゾーンには、「赤ちゃんの通り道」や「赤ちゃんのもとになるもの」があり、命につながる場所であることが分かると、恥ずかしさもなくなり、真剣に学習に取り組むことができました。また、お腹の中で、赤ちゃんが産まれるまでの先生の話も集中して聞きました。

その後、命につながる場所を大切にする方法について考えました。「蹴らない」「たたかない」「見せない」「触らせない」等、様々な意見が出ました。



最後はワークシートに自分の言葉で今日学んだことを書きました。「プライベートゾーンは大切な場所だからこそ、人に見せたり、触らせたりしない。」等、それぞれが今日の学習を通して感じたことや学んだことを自分の言葉で書くことができました。命につながる大切な体の場所について学習し、友達のことや自分のことをもっと大切にしようと思う気持ちを持つことができました。

Abi-キャリア「我孫子産野菜を使ったオリジナル味噌汁を作ろう」

2月14日に、並木小学校の第5学年で、Abi-キャリアの食育の一環として、家庭科で「我孫子産野菜を使ったオリジナル味噌汁を作ろう」の学習を行いました。子ども達は、ここまでの学習で、それぞれ味噌汁の具に使用したい野菜を選びました。今日は、株式会社味の素の出前授業を実施し、最後の味の決め手について学びます。



授業では、味覚の一つ「うま味」について学んでいきました。まず、「うま味」が日本で発見されたことや「だし」の味であることを知ると、次に「味噌湯」（お湯に味噌だけを溶いたもの）と、そこに「味の素」を加えたものを飲み比べてみました。「味噌湯」は薄味で、塩味しか感じなかったのに対し、「味の素」を加えたあとは、「おいしくなった！」「味噌汁の味になった！」「甘味も感じた」など、味が大きく変化したことを実感。うま味が、味を引き立てて美味しくすることや、塩をたくさん使わなくても美味しくなることを学びました。

さらに、うま味が世界的に注目されている味であることや、バランスの良い食事の大切さ、食事に汁物を効果的に生かす方法などについて学ぶことで、一層「味噌汁」の魅力を実感。そして、いよいよその味噌汁の味の決め手、「だし」となる様々な種類の食材について、実際の食材を見て、触れて、香りのかいで、体験していきました。



最後に、自分のオリジナル味噌汁のレシピに、「だし」を加えて、献立を完成。我孫子の美味しい野菜を、日本が誇る「うま味」でさらに美味しさを引き出し、一つ一つの味噌汁がオリジナルの美味しい地域の味となるのが楽しみです。